

社説

銀準備を廢す可し

兌換銀行券條例に據れば日本銀行は正貨準備の四分の一以内は銀貨兌換を所有して引換準備に充つるを得るの規定あり幣制改革の當時政府は引換準備の處分に困難を生じたる場合には日本銀行と協議の上にて右條例の許す限り銀準備を正貨準備に加へて處分の困難を免れんとするの計畫を立てたる由なれども其後銀行は所有の銀貨兌換を以て準備に充つる本年四月以來は金貨のみを以て準備に充つるを以たり元來日本銀行が正貨準備を所有する主旨は兌換券の信用を維持して其流通を安全にするに外ならざれば金に對して常に價格の變動する銀貨兌換を準備に加へて意外の危険を被らんとするが如きは決して兌換制度の基礎を鞏固にするの道に非ず銀行が條例の規定如何に拘はらず一切の銀を金に換へて金貨準備の充實を謀りたるは適當の處置にして永く斯る方針を守らんと世間一體の希望する所なるに然るに銀行の當局者は今度政府の要求に従ひ國庫より六百萬圓の銀貨を受け入れて正貨準備に加へ同額の兌換券を發行して國庫に貸付たりと云ふ日本銀行が所有する金貨準備は六千三百萬圓にして右の銀貨は僅に其十分の一に過ぎざれども既に之を増加せしめて兌換券を増發するの餘裕を得たる次第なれば更らに其増發を試みて物價を騰貴せしめ輸入超過を増して金貨準備の取付けを促し結局兌換制度の基礎を薄弱ならしむるの掛念を免かれざるなり或は日本銀行は兌換預け入れの利子と兌換券貸上げの利子の差に依り多少の利益を収むるのみか今後銀貨が金に對して騰貴するのみならず銀準備の爲めに意外の利益を占むるの望ありとの説もあらんかなれども斯る投機に類する掛引は中央銀行の本質より見て斷じて行ふ可きものに非ず又實際倫理相場場の前途を考ふるに現今は西班牙の中央銀行が正貨準備の不足を補はんとし多額の銀貨を買入るを以て一オンズに付き二十六片蓋の價格を維持すれども一旦その需要の止むと同時に印度政府が豫定通り幣制改革に着手せんには銀貨の下落は到底免かれ難き所にして日本銀行が永く準備として銀を所有するときは相場の上落と共に如何なる損失を被むるやも知る可らず銀貨下落の爲めに所有の銀の價に變動を招きて意外の困難を被むるは今日合衆國政府を始めとして大陸諸國の中央銀行が明に實踐する所なれば政府も此種の利害を考へ日本銀行の金貨準備に銀貨を加ふるべきの計畫は斷じて停止せざるを所なる可し昨今金貨回收の爲りに正貨準備の勢を減じたるを以て世間

マニラ近信

七月一日マニラ發の報に曰く 運送船の到着 二千五百の米國陸兵を載せた運送船オーストラリア號、シチー オブ ベンチ、マニラ、オア、ドニー號は軍艦チャールストン號に護衛せられ六月三十日マニラ港内のカウヰテ軍港に着したるが其到着は豫期よりも後れたるを以てデユウエー將軍は部下のバルチモア號を派して右諸船を出迎へしめたるにバルチモア號はエンガナトといへる處にて諸船と出會ひ夫れより先導してマニラ灣に入りたるよし陸兵の到着したる節には米國の各艦内に於ける士官水兵の喜、聲へん方なかりしとぞ

太守は米西戰爭の事を知らず米艦の砲撃を禮砲と誤解シグラムには彈藥なく答砲する能はざる旨を附せんとして一小舟をチャールストン號へ送り越したるが既に米西間當時の關係を聞き大に驚きたりといふ艦長グラス氏の招喚に對し大守ロユアン マリナ氏は秘書官をして其外國軍艦に行く能はざる旨を答へしめたり依りて翌廿一日、米艦長は二百の精兵に士官を附し陸上なるピナコ市に至らしめて太守に交渉する所あり遂に太守はグラム艦を初めラドロオン群島の權力を米艦長の手に交附し守備軍隊及び兵器糧食等をも引渡したり太守は無理に米艦まで引連れられ同時に守備兵を解除するの命を發せしめたるが其後、米艦より水兵一隊、更に上陸して五十四人の西班牙兵を虜にし同数の土民兵を擄隊せしめたり太守及び六名の西班牙士官と其他の西班牙兵はドニー號に載せられたるが此際米艦の分捕せるものは五十四のモーゼル銃、同数のレイントン銃及び四本の西班牙軍旗等取りしといふ廿二日には艦長グラス氏上陸しサンタクルーズ城の上にも米の國旗を翻へしチャールストン號はラドロオン群島に對する米

國の主權を視せんが爲め二十一發の砲を發かせり 反徒の占領 呂宋反徒の既に占領し得たる諸州はカウヰテ全州、マニラ州の中にマニラ市及び其附近を除くの外、周圍の諸村落、ラナ全州、バタングス全州、バタートン全州、ミンドロ全州、タヤバト等にして何れも假州廳を設けんと準備最中なり 反徒の獲物 反徒はカウヰテに於て凡そ八千挺の銃を分捕しバタングスに於て二千挺、バタートンに於て千挺、マニラ郊外に於て二千挺、ラナに於て千挺、バラカンに於て二千挺、モロングに於て三百挺、パンパンガに於て二百挺の銃を分捕したりといふ此外、反徒は十六門のホルデンフエルト砲等を有し居るとなり

○政務調査委員の任命 臨時政務調査委員長被仰付 外務次官 小村壽太郎 臨時政務調査委員被仰付 内務次官 板垣 退助 陸軍次官 武富 時敏 大藏次官 鈴木 充美 文部次官 相田 壽一 逓信次官 箕浦 勝人 司法次官 山田喜之助 農商務次官 柴 四朗

○局外評 新内閣が政黨内閣の新店を張りたるより議員者流の自から賣らんとして店頭に押寄するもの多し其機嫌一方ならざるより世間早くも新内閣を非難するものあり殊に貴族院にては新内閣に反對せんとするもの少からざるやに傳ふるものわれど公平なる局外者は之を評して曰く成程、強官熱の失態は憲政黨の新閣すら揺りし非難するものあるはせざるば見苦しむといふ言はん方なしといへども道は強官者の罪にして新内閣の過とは見るべからず各大臣

の如きは決つしあるは憲政黨の助けを得免れずして由ありきり、數の贊助を以てに依り終論慮を安んじ、遂げ其所を、登席の上は、公平の見、史述して政、の機嫌只、とせず然る、内政の困、に涉らしめ、せる貴族諸、正に強官熱、は未だ實地、内閣に反抗、めにする所、農商務省、變動はな、日借國に、に信任を置、んと想像せ、るれば此、するを待、佛、のリース氏、外交問題、を否認した、三ツあり一、問題あり埃、を防止せ、ナイチャー、論英國內、くべき開、計なりと思、來此同盟、多くして佛、至て少し左、案を可決し、は記せり尙、過したるも、を求めは、二票の多數、如きは強、は深し辭職

○政務調査委員の任命 臨時政務調査委員長被仰付 外務次官 小村壽太郎 臨時政務調査委員被仰付 内務次官 板垣 退助 陸軍次官 武富 時敏 大藏次官 鈴木 充美 文部次官 相田 壽一 逓信次官 箕浦 勝人 司法次官 山田喜之助 農商務次官 柴 四朗